



三木の祭り屋台 紹介リレー その2

市では、市制施行70周年記念事業として、10月26日に「三木の祭り屋台大集合」を開催します。ここでは、地域に代々伝わるお祭りで奉納されている「祭り屋台」の魅力と文化を守り育てる皆さんを紹介します。

問 (市)企画政策課 企画政策係

本号紹介の秋祭りスケジュール

- 熊野神社(興治)
10月5日(土)、6日(日)
午後3時頃 宮入
午後4時頃 獅子舞奉納
- 八雲神社(花尻)
10月5日(土)※、6日(日)
午前11時30分頃 宮入
※5日は町巡回のみ
- 大日神社(細川中)
10月6日(日)
午後5時頃 宮入
- 三坂神社(大柿)
10月5日(土)、6日(日)
午後6時頃 宮入



興治
(熊野神社)

別所町興治にある熊野神社秋祭りは獅子舞で有名ですが、子ども屋台にも長い歴史があります。一本龍の水引幕と提灯は絹常製で、高欄掛には退治ものがあしらわれています。鳴り太鼓は中学生までの男女が叩くのが伝統で、道開きの神様、猿田彦の具現である「ハナ」が露払いとして屋台を先導します。

興治獅子舞の歴史は古く約175年前に始まると記録があります。獅子舞の左右に「囃し子」という3歳から6歳くらいの子どもたちが獅子舞に合わせて踊り、2日間の祭りを盛り上げます。興治の祭りの特徴は誰でも参加できることです。子どもたちが大人になっても獅子舞に関わって欲しいと思います。



興治獅子保存会
北本 光男 さん



花尻
(八雲神社)

平成24年に大塚の旧屋台を譲り受け翌年に大改修。狭間彫刻は彫師 柳正則による銘品。水引幕は「素戔鳴尊八岐大蛇退治」、高欄掛は退治もの四面。いずれも名縫匠絹常製を復元修復ならびに復元新調しました。布団締めは「阿吽の鯨」、屋提灯に「阿吽の龍」。鏡面2尺4寸の鳴り太鼓は1795年ともいわれる年代物です。

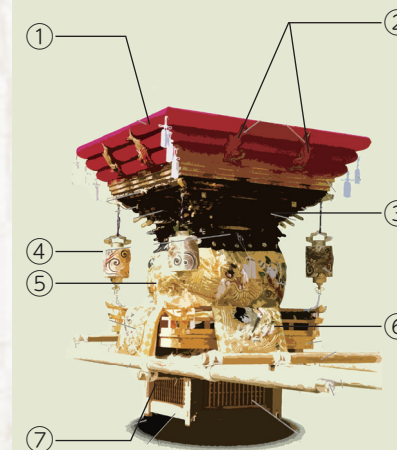
平成24年に先代屋台から三段屋根の屋台になり、市制60周年記念の祭り屋台大集合から参加しました。

今では多くの若者が我が地区屋台を昇がせてほしいと集まってくるまでになっています。“情熱で得た伝統の三段”を守り続け、次世代の若者達に地区の誇りを持たせてやりたいと思います。



花尻八雲会
生田 哲久 さん

屋台各部の名称



- ①布団屋根
赤い布団の3段、5段、反り屋根、宮殿造りの屋根がある
- ②布団締め
布団屋根の四方に取り付けられた装飾
- ③狭間彫刻
屋台の四方を飾る彫刻
- ④屋提灯
絵柄や文字の刺繍の入った飾り提灯
- ⑤水引幕
四本柱の周りに巻く細長い幕
- ⑥高欄掛
豪華に装飾された四角の刺繍飾り
- ⑦長胴太鼓
通称「鳴り太鼓」。乗り子が叩く合図で屋台が動く

祭りの掛け声

三木の祭りで屋台を担ぎ上げる時の代表的な掛け声は、
・打ってくれ(ドンドン)
・あ、もひとつせえ(ドンドン)
・よいとさんど(ドドンドン)
・ソラ差しましょ

これは祝い事の手締めのひとつ「大阪締め」と合致する。「打ちましょ」「もひとつせ」「祝うて三度」がそれで、三木のよいと三度は祝うて三度が訛ったものと考えられています。

【出典】三木市観光協会 三木の祭り屋台・獅子舞・写真集



細川中
(大日神社)

三木合戦の時代に三木城の支城「中村城」があった歴史ある農村の細川中では、大日神社の秋祭りに屋台が出ます。鳴り太鼓は江戸時代からのもので伝統があるのが自慢です。雲板は「鷲と兎」、狭間彫刻は鎌倉時代の豪傑武将「朝比奈三郎 鍛引き」、水引幕は「昇り龍」、高欄掛は「虎」があしらわれています。

平成25年の屋台大改修では、先代から水引幕や高欄掛を継承し、愛着の持てる屋台が完成しました。また、この時に制作した黄金の稲穂をデザインした法被は、とても人気が高く、祭りは応援に駆けつけてくれる人も増えて大盛況です。大柿屋台との練り合わせでは、お互いの意地もぶつかり合っています。



細川中屋台奉昇会
中井 康仁 さん



大柿
(三坂神社)

先代屋台を平成11年に新調。三段布団の反り屋根型で布団締めは金綱、金糸刺繍の水引幕は「大坂夏の陣」、高欄掛は「空」「地」「水」「地中」を表した退治もの、屋提灯は「大阪城と阿吽の龍」を表現。狭間彫刻には「弁慶と牛若丸」「源義経の八艘飛び」「平景清の鍛引き」「源為朝の強弓」があしらわれています。

秋祭りの先陣を切って毎年10月第一週の土日に開催しています。宵宮はデイサービス細川で屋台練りを披露し、本宮は氏子地区を練り歩き、境内では浦安の舞・相撲が執り行われます。また、大日神社細川中との2台練り合わせや豊地交差点から宮入が見どころです。

細川地区7カ村一致団結して秋祭りを盛り上げています。

穴地区 区長 米村 好正 さん

